



専修大学スポーツ研究所公開シンポジウム2017 報告
スポーツレガシーシリーズ Vol.10

支えるスポーツの フロントライン

2017年11月29日(水) 13:30-16:15

会場：専修大学生田キャンパス10号館10301教室



開会の挨拶

佐竹 弘靖 (専修大学スポーツ研究所 所長・ネットワーク情報学部教授)

佐竹 皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました専修大学スポーツ研究所所長の佐竹です。本日はご多忙の中多数のご参加いただきまして本当にありがとうございます。本日はスポーツ研究所主催のシンポジウム、題して『支えるスポーツのフロントライン』ということでございます。

ご承知の方もいらっしゃるかもしれませんが、きょうは2020年東京パラリンピックの1000日前になります。この記念する日に私どものシンポジウムにスペシャルゲストをお招きすることができました。アテネオリンピックハンマー投げ金メダリストで、現在は東京医科歯科大学教授でいらっしゃいます室伏広治先生です。室伏先生に関しましては私がお説明するまでもなく皆さんよくご承知だと思っています。

また第2部では本学の法学部の教授、吉田先生、商学部准教授の富川先生、そして本

学を卒業され、今最も東京オリンピックに近いと言われている男、レスリングの中村倫也選手。それから本日は国際大会のために出席してもらうことができなかったのですが、ビデオ出演をしていただけたということで、新進気鋭の、商学部所属のフェンシングの菊池小巻さんの4名の方をお招きし、専修大学をご卒業され専修大学在学中はテニス部でキャプテンをしていた高崎伸子さんの司会のもとに、非常に興味深い話が聞けるだろうと思っています。

最後になりますが、一つ皆さんにご紹介をしたいと思います。室伏先生は先日この『ゾーンの入り方』という著書を上梓されました。この著書の中に室伏先生は、現役時代とても大切にしている言葉があるのだと書かれています。その言葉は、不易流行という言葉です。この意味は、本来ある最も本質的なもの、これは変えられない。けれども新しいも

のをそこに入れることによって日々進化していくのだと。それを室伏先生は現役時代常にモチベーションを保つために座右の銘にしていたということが書かれています。私はこれを読んだときにこう思いました。これを2020年東京オリンピック・パラリンピックに置き換えたらどうなるだろうと。オリンピック・パラリンピックの変えられない、変えてはいけない理念、それに支えるスポーツという新しい視点を入れることによって、オリンピック・パラリンピックがより進化していく。2020年東京オリンピック・パラリンピックは進化した形になるのではないかと、そう考えています。話が長くなりました。

専修大学の学生諸君、こんな貴重な時間はない。集中してしっかり聞いて、そして何かつかみ取ってください。これをもちまして私の開会のご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。